

# 特殊報

令和3年12月16日  
奈良県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予察特殊報 第1号の送付について

1. 病虫害名 ネギハモグリバエバイオタイプB<sup>\*</sup>  
*Liriomyza chinensis* (Kato) biotype B

2. 発生物種 ネギ

3. 特殊報の内容 本県における初発生を確認

4. 発生地域 奈良県中和地域

5. 発生確認の経緯

- 令和3年11月下旬に奈良県中和地域の露地ネギほ場で本種と疑われるハモグリバエの潜孔被害が確認されました。
- 農研機構 野菜・花き研究研究部門に同定を依頼したところ、本県で未発生のネギハモグリバエバイオタイプBと同定されました。

※本バイオタイプは、従来はB系統、もしくは新系統、別系統と称されてきましたが、Tokumaru et. al. (2021) によりバイオタイプに該当するとされ、バイオタイプBという名称が提唱されましたので、本報ではバイオタイプBと称します。

6. 生態と被害

- 本バイオタイプは、平成28年に京都府での発生が初めて報告され、令和3年12月現在で、青森県から鹿児島県に至る本州、四国、九州の31都府県から発生予察特殊報が発表されています。
- 本バイオタイプは、従来発生していたバイオタイプAとは遺伝的に異なります。本バイオタイプの由来や海外での発生状況の詳細は不明ですが、同じ遺伝子配列のネギハモグリバエが中国から報告されています (Chen et. al. 2018)。
- 本バイオタイプは、バイオタイプAとは潜孔パターンが異なります。バイオタイプAの潜孔は不連続な断続線状の潜孔 (写真1) を形成しますが、B系統は不規則な連続線状の潜孔を形成します (写真2:左)。また、1カ所から多数の潜孔が伸び

て互いに繋がり（写真2：右）、面的に白化するなど、バイオタイプAよりは激しい被害となります。

（4）成虫の外部形態は従来のバイオタイプAと変わりありません。



写真1. バイオタイプAの潜孔

矢印：断続線状に途切れる



写真2. バイオタイプBの潜孔

左矢印：途切れない連続線が面的に繋がる

右矢印：1カ所から多数の潜孔が伸びる

## 7. 防除対策

- （1）本種の防除には、ネギハモグリバエ、もしくはハモグリバエ類に登録のある農薬が使用できます。作物ごとの登録内容に従って防除して下さい。
- （2）老熟幼虫は潜孔から脱出して株元の土中で蛹になります。収穫後の被害株や残渣は次の発生源になりますので、ほ場から持ち出して処分してください。

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所  
TEL. 0744-47-4481

病害虫防除所ホームページ  
<http://www.jppn.ne.jp/nara/>